

## 編集の基本方針に関わる検討

教育基本法第二条 第1～5号への対応	内容及び特色	該当の紙面
<p>〈第1号〉 音楽に関する幅広い知識と技能を身に付け、豊かな情操を養うことをめざしているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 曲想と、音楽の構造、歌詞の内容、曲の背景、音楽の特徴との関わりを踏まえ、「主要教材」による学びを基盤にして、④ 比べてみよう ⑤ 深めてみよう を活用することでより確かな知識や技能が身に付けられるよう適切に配慮されている。</li> <li>▶ 歌唱、器楽、創作の各分野において、創意工夫するために必要な技能が各学年の実態を踏まえて身に付けられるよう工夫され、豊かな情操が養われるよう適切に配慮されている。</li> </ul>	<p>全学年 各ページ</p> 
<p>〈第2号〉 音や音楽に対する個人の価値意識を尊重して、その能力を伸ばし創造性を養うことをめざしているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 音楽を形づくっている要素とその働きとの関わりを的確に捉えながら、学習活動で実際に用いる音楽的な見方・考え方を働かせたり、言語活動を充実させながら音楽に対する価値を考えたりし、個人の価値意識を尊重し創造性が養われるよう適切に配慮されている。</li> </ul>	
<p>〈第3号〉 音楽活動を通して自他の敬愛と協力を重じ、尊重する態度を養うことをめざしているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 音楽に関する知識や技能を得たり生かしたりして、自らの表現を工夫したり、他者との交流によって小集団や学級としての表現を工夫したりすることから、自他の敬愛や協力を尊重する態度が養われるよう適切に配慮されている。</li> </ul>	
<p>〈第4号〉 音楽で表現される生命の尊さや自然の大切さを理解し、尊重する態度を養うことをめざしているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 歌詞やその背景となる我が国の美しい情景や作詞者・作曲者の思いなどを理解しながら表現して、生命の尊さや自然の大切さを尊重する態度が養われるよう適切に配慮されている。</li> </ul>	
<p>〈第5号〉 我が国や郷土の音楽文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国の音楽文化を尊重する態度を養うことをめざしているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 我が国や郷土の音楽文化の理解を基盤にして、さまざまな音楽文化や音楽表現の共通性や固有性に気づき多様性を理解することから、我が国や郷土の音楽文化、他国の音楽文化を尊重する態度が養われるよう適切に配慮されている。</li> </ul>	
中央教育審議会答申における 学習内容の改善や充実への対応	内容及び特色	該当の紙面
<p>1 「知識」及び「技能」に関する 指導内容の明確化への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 「知識」と関わって「曲想と音楽の構造との関わり」が明確になるように「ACTIVE!」のページで学習の内容とその活動例を明確に示しているとともに、「技能」については創意工夫を生かして表現するための技能を適切に関連させた紙面となっている。</li> <li>▶ 「知識」及び「技能」に関する内容を「思考力・判断力・表現力等」の育成と関わらせて習得できるようにLet's Sing! やキャラクターによるヒントを示すなど工夫された紙面となっている。</li> </ul>	<p>全学年 各ページ</p>
<p>2 鑑賞の指導内容の充実への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 生徒が聴き取りやすく親しみやすい多様な音楽を掲載するとともに、複数の教材によって「生活や社会における意味や役割」や「音楽表現の共通性や固有性」について考える学びが実現できるよう工夫された紙面となっている。</li> </ul>	<p>全学年 各ページ</p>
<p>3 「共通事項」の指導内容の 改善への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 「学びのポイント」などに実際の学習活動での取り扱いがわかりやすく示されていて、表現と鑑賞の各領域共通に「音楽的な見方・考え方」としてと扱うように工夫された紙面となっている。</li> <li>▶ 音楽の用語や記号については巻末の折込みページに配置し、生徒自らが調べやすいように紙面の構成を工夫している。</li> </ul>	<p>全学年 各ページ</p>
<p>4 言語活動の充実への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 他者と協働しながら表現を工夫したり音楽や演奏の良さや価値を考えたりする学習を展開するため、キャラクターによって具体的な内容を示したり「話し合おう」で考えたことを交流させたりする工夫がなされた紙面となっている。</li> </ul>	<p>全学年</p> <p>話し合おう</p> 
<p>5 歌唱教材及び器楽教材の 選択の観点の改善への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 生活や社会において音楽が果たしている役割が感じ取れるものや、音楽文化についての理解を深められるものを厳選し、三年間にわたって教材の関連を図るように紙面の構成を工夫している。</li> </ul>	<p>1年 p.54, 口絵② 他</p> <p>2・3年上 p.46, 口絵② 他</p> <p>2・3年下 p.53, 口絵② 他</p>
<p>6 我が国や郷土の伝統音楽に関わる 指導の充実への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 我が国の多様な民謡や芸能を取り上げたり、雅楽や能、文楽、歌舞伎などの伝統芸能を関連づけながら配置したりして、我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着を持つことができるように紙面の構成を工夫している。</li> <li>▶ 和楽器や口唱歌などを取り上げ、表現と鑑賞の学習活動に生かすことができるように配慮している。</li> </ul>	<p>1年 p.48, p.52 他</p> <p>2・3年上 p.40, p.44 他</p> <p>2・3年下 p.38, p.44 他</p>

児童生徒の学習評価の在り方について(報告)に関する対応	内容及び特色	該当の紙面
1 カリキュラム・マネジメントと学習評価への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 実践に即したカリキュラム・マネジメントが展開できるように「学びのユニット」を示し、主要教材による学びを生かして比べたり学びを深めたりすることが可能な編集となっている。</li> <li>▶ 「学びのユニット」によって「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点による学習評価がバランスよく実施できるよう適切な取扱いが可能な編集となっている。</li> </ul>	<b>全学年</b> p.4
2 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と学習評価への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 主体的・対話的で深い学びを実現するために「曲想と音楽の構造との関わり」を柱に「ACTIVE!」や学びのポイントを提示し、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点による学習評価をバランスよく実施できるよう適切に工夫されている。</li> </ul>	<b>1年</b> p.6, p.32, p.38 <b>2・3年上</b> p.6, p.26, p.30 <b>2・3年下</b> p.6, p.22, p.26

## 学習指導要領と関わる教材の選択・配列・範囲についての検討

教材の選択・配列・範囲について	内容及び特色	該当の紙面
1 音楽文化と主体的に関わる <ul style="list-style-type: none"> <li>• 音や音楽と生活や社会との関わり</li> <li>• 我が国及び諸外国のさまざまな音楽</li> <li>• 我が国と諸外国の音楽との関係性</li> <li>• 音楽文化の継承、発展、創造を支えることへの理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 全学年を通して我が国や郷土の伝統音楽を基盤にして、音や音楽と生活や社会の関わり、それらによる音楽の特徴や多様性を取り扱う工夫がなされた紙面となっている。</li> <li>▶ 鑑賞領域の指導では、中学音楽1ではアジア地域の諸民族の音楽、中学音楽2・3上下では諸外国の様々な音楽を教材とし、主体的な学びを展開するために工夫された紙面となっている。</li> <li>▶ 我が国の音楽文化の継承、発展、創造に関わる若手の演奏家や中学生の取り組みを紹介するなど、適切な取扱いと配慮がみられる紙面となっている。</li> </ul>	<b>全学年</b> 巻頭口絵  <b>1年</b> p.48, p.54, p.63 他 <b>2・3年上</b> p.40, p.46, p.59 他 <b>2・3年下</b> p.38, p.42, p.53 他
2 指導のねらいに照らして適切なもの <ul style="list-style-type: none"> <li>• 生徒にとって親しみやすい音楽</li> <li>• 生徒や学校の実態に応じた教材の選択</li> <li>• 他者とともに一つの音楽表現をつくる過程の重視</li> <li>• 音を音楽へと構成していく体験</li> <li>• 生徒が楽しみながら音楽をつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 歌唱・器楽・創作・鑑賞の各教材は「曲想と音楽の構造との関わり」が意識され、3年間の系統性を意識した配列となっていて、生徒や学校の実態に応じて選択できるよう工夫されている。</li> <li>▶ 歌唱教材は、斉唱や重唱、合唱など多様な演奏形態を取り扱うことが可能で、充実した表現活動が設定できるように工夫されている。また、他者とともに音楽表現をつくる過程を重視した具体的な内容となっている。</li> <li>▶ 器楽教材は、歌唱・創作・鑑賞の各活動と関連させながら、生徒や学校の実態を踏まえて取り扱うことができるように工夫されている。また、和楽器も実践的で適切な取扱いとなっている。</li> <li>▶ 創作教材は、学習内容と具体的な活動をわかりやすく示し、Let's Try! などと関連させながら、リズムや旋律をつくったり音を音楽へと構成したりする楽しさを体験できるよう実践的な紙面となっている。</li> <li>▶ 鑑賞教材は効果的に学習できるように選曲されており、「学びのユニット」によって多様な音楽を関連づけながら学習が展開できるように工夫されている。また、我が国と諸外国の音楽との関係性に着目し、効果的な紙面となっている。</li> </ul>	<b>全学年</b> 各ページ
3 我が国の文化や日本語の美しさ <ul style="list-style-type: none"> <li>• 我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるもの</li> <li>• 伝統的な声や歌い方の特徴を感じ取れるもの</li> <li>• 伝統的な歌唱や和楽器の指導における口唱歌の活用</li> <li>• 歌唱共通教材</li> <li>• 和楽器の取り扱い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 歌唱共通教材は、各学年で1曲以上取り扱えるように編集している。</li> <li>▶ 歌唱共通教材の歌詞の内容や背景について、生徒がイメージを豊かにして取り組めるように紙面を工夫したり、作詞者・作曲者の思いや意図を伝えたりする工夫が見られる。</li> <li>▶ 民謡などにみられるコブシや産み字などの旋律装飾、リズムや旋律を表わす口唱歌を楽しむながら体験できるように工夫したり、それらを民謡譜例などで示したり工夫された紙面となっている。</li> </ul>	<b>全学年</b> 巻頭口絵 <b>1年</b> p.14 夏の思い出, p.16 赤とんぼ <b>2・3年上</b> p.14 浜辺の歌, p.16 早春賦, p.52 花の街 <b>2・3年下</b> p.12 花, p.16 荒城の月, p.48 荒城の月 (山田耕筰 補作編曲)
4 音楽科の特質に応じた言語活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 音楽によって喚起された自己のイメージや感情</li> <li>• 音楽表現に対する思いや意図</li> <li>• 音楽に対する評価などを伝え合い共感する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 歌唱・器楽・創作・鑑賞の学習を通して、音楽から喚起されるイメージや雰囲気、感じ取った曲想について、音楽の構造と関わらせながら取り扱うよう工夫された紙面となっている。</li> <li>▶ 自分の音楽表現に対する思いや意図や他者の考えを「話し合おう」の活動で展開したり、「比べてみよう」を効果的に示して、音楽や演奏のよさや面白さを主体的に考えることができるようにするなど、工夫された紙面となっている。</li> </ul>	<b>全学年</b> <div style="display: flex; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 15px; padding: 5px; display: flex; align-items: center; gap: 5px;"> <span style="font-size: 0.8em;">話し合おう</span> </div> </div>
5 音楽的な見方・考え方 <ul style="list-style-type: none"> <li>• (共通事項)の取扱い</li> <li>• 知覚したことと感受したこととの関わり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 音楽を形づくっている要素とその働きに着目し、音楽を学ぶ上で中核となる音楽的な見方・考え方を活用して学習活動が展開できるよう工夫された紙面となっている。</li> </ul>	<b>全学年</b> 「学びのポイント」
6 道徳教育との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 道徳教育との関連を重視し、音楽を愛好する心情、美しいものや崇高なものを尊重する態度の育成をめざし、我が国の自然や文化、日本語の美しさを感じ取れる教材を選択できるよう工夫された紙面となっている。</li> </ul>	<b>全学年</b> 巻頭口絵
7 コンピュータや教育機器の効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 音や音楽と生活や社会との関わりからコンピュータの活用を取り上げるとともに、生徒一人一人の学習に対応できるよう必要な情報を「学びリンク」で的確に示すなど工夫された紙面となっている。</li> </ul>	<b>2・3年下</b> p.64
8 音楽に関する知的財産権	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 音や音楽と生活や社会との関わりから音楽に関する知的財産権を取り上げ、具体的で的確な事例を示すことによって理解が深まるよう工夫された紙面となっている。</li> </ul>	<b>2・3年上</b> p.70

## 内容の取り扱いについて

### 具体的な観点及び内容

### 該当の紙面（主に1年の紙面を提示しています）

**1 指導事項や音楽的な見方・考え方の取り扱い**  
「学びのポイント」で指導事項と音楽的な見方・考え方の取り扱いを全学年共通に示し、題材（学びのユニット）による計画的で効果的な学習が展開できるように工夫された編集となっている。また、〔共通事項〕に関わる取り扱いでは音楽に関する用語や記号をページ右側に示したり、キャラクターによって学習活動の補足説明をしたりするなど、きめ細かい配慮がみられる。



**2 歌唱分野の指導の系統性や発展性**  
学校や生徒の実態に応じて教材を選択できるように、「歌のアルバム」及び「君が代」を含め、全学年を通して多様な選択が可能となっている。中でも、斉唱から混声合唱へ系統性や発展性を踏まえた学習が展開できるよう配慮がなされている。また、「君が代」は多様な生徒の実態を踏まえた紙面となっている。



**3 歌唱の基礎的な技能を身につけるための工夫**  
各学年でLet's Sing! に歌唱の技能に関して、1年「歌うための準備」「言葉の発音」「変声と混声合唱」、2・3上「旋律のまとまり」、2・3下「フレーズと旋律」を掲載し、息のコントロール、母音の発音、変声や合唱の演奏形態、音楽の構造と関わる旋律のまとまり、形式に関わるフレーズなどの取り扱いが、学習に対応して取り扱うことができるように工夫されている。



**4 我が国や郷土の伝統音楽、アジア地域の諸民族や諸外国のさまざまな音楽の取り扱い**  
我が国の伝統音楽、郷土の民謡や芸能について、歌唱、器楽、創作、鑑賞の全ての学習を通して取り扱うことができるよう効果的に紙面が工夫されている。また、アジア地域の諸民族の音楽、諸外国のさまざまな音楽の取り扱いとも関連が図られている。

- 1年**  
p.28 「ソーラン節」、p.29 「かりぼし切り歌」、p.30 郷土のさまざまな民謡、p.32 日本語の抑揚を生かした旋律をつくろう、p.48 箏曲「六段の調」、p.51 尺八曲「鹿の遠音」、p.52 箏（こと）を弾いてみよう「さくらさくら」、p.54 日本とアジアの声によるさまざまな表現、p.63 日本とアジアをつなぐ音、口絵③ 郷土の民謡に用いられる楽器
- 2・3年上**  
p.28 平調子の特徴を生かして音楽をつくろう、p.40 雅楽「越天楽」、p.43 雅楽 左舞「万歳楽」右舞「拍子」、p.46 郷土の音楽や芸能、p.48 各地のさまざまな音楽・芸能、p.59 能「羽衣」キリから、p.60 能、p.62 能の音楽を体験しよう
- 2・3年下**  
p.38 歌舞伎「勧進帳」、p.42 文楽「義経千本桜」から、p.44 長唄「勧進帳」をうたおう、p.52 さまざまな舞台芸術、口絵③ さまざまな舞台芸術

**5 我が国の伝統的な声の特徴、口唱歌や和楽器の取り扱い**  
1年では身近な地域の民謡として「ソーラン節」「かりぼし切り歌」「谷茶前」、2・3年上では「能の謡」、2・3年下では「長唄」を取り上げ、伝統的な声の特徴を感じ取りながら歌ったり体験したりできるように工夫されている。その際、民謡譜例を提示したり表現の仕方を説明したりするなど、学習活動に生かすことができるよう紙面が工夫されている。また、口唱歌や和楽器の扱いは、1年箏曲「六段の調」「箏（こと）を弾いてみよう」、2・3上雅楽「越天楽」「唱歌を用いて「越天楽」を体験しよう」「郷土の音楽や芸能」「能の音楽を体験しよう」、2・3下「長唄「勧進帳」をうたおう」で、適切な取り扱いができるように配慮された編集となっている。



**6 創作活動の改善と充実を図る工夫**  
全学年の「音のスケッチ」で、旋律をつくることと音楽を構成することの2つの指導事項による学習に対応するとともに、楽しく分かりやすく学習活動が行えるように工夫されている。また、3年間の系統性や発展性を踏まえ、多様で体験的な学習活動が展開できるように工夫がなされている。そして、創作の学習を充実させるためにLet's Try! などの学習と関わらせるなど、きめ細かい配慮がみられる。



**7 言葉で説明したり批評したりする活動の取り扱い**  
全学年とも鑑賞領域の学習では、「音楽や演奏に対する自分の考えを述べる」「複数の音楽を比べてみてよさや美しさなどを考える」など、具体的な活動を提案している。キャラクターによる指示や「話し合おう」の活動によって学習活動を示すなど、生徒が音楽を聴き深め価値を考えられるような工夫が随所になされている。



**8 主体的・対話的で深い学びについて**  
「ACTIVE!」のページでは具体的な学習内容を丁寧に示したり、「話し合おう」で自分の考えや感じ取った曲想、曲想と音楽の構造との関わりなどをまとめ交流できるように工夫されている。こうした学習活動によって、主体的・対話的で深い学びの実現に向かうよう十分に工夫された紙面となっている。



**9 学びを支えるカリキュラム・マネジメントについて**  
表現：歌唱「うたう」創作「つくる」と、鑑賞「きく」の各学習がバランスよく配置され、主体的・協働的に学ぶことができるよう「④ 比べてみよう」「⑤ 深めてみよう」を活用し、教材の配列を工夫した「学びのユニット」を例示している。そして、音楽的な見方・考え方を働かせ、「知識及び技能」を得たり生かしたりしながら、「思考力、判断力、表現力等」に関わって表現を創意工夫したり聴き取ったりすることを重視した編集となっている。



### 我が国や郷土の音楽文化、アジア地域の諸民族や諸外国の音楽文化の取り扱い

我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい愛着をもつことができるように表現と鑑賞の学びを有機的に関連づけるとともに、音楽の歴史的・文化的な背景、生活や社会における音楽の働きや役割について、音楽活動を通して理解できるよう工夫された紙面となっている。我が国と諸外国の音楽について、共通性や固有性から音楽の特徴を聴き取り、その多様性を理解することができるように工夫がなされている。1年「日本とアジアの声によるさまざまな表現」「日本とアジアをつなぐ音」、2・3下「さまざまな舞台芸術」「物語を表現するアジアの芸能や音楽」などでは、楽器の構造や生活や社会との関わり、総合芸術の特徴的な表現など、我が国や郷土の伝統音楽の理解を基盤とした学習が展開できるよう十分な配慮がなされている。



### 音楽の共通性や固有性、音楽の特徴や多様性への理解

歌唱と鑑賞の学習で、主要教材と比較することから様々な音楽の共通性や固有性を考え、その特徴を理解することができるように工夫された紙面となっている。また、「何が同じで、何が違う?」では鑑賞の主要教材を比べながら、音楽文化の多様性に気づかせるように工夫された紙面となっている。



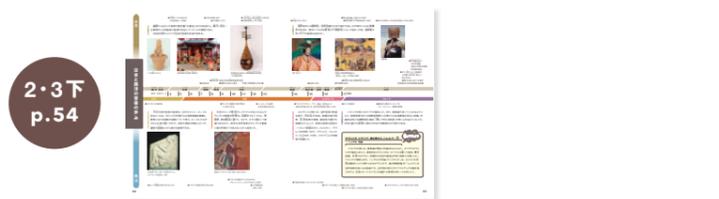
### 「まなびリンク」や音楽を形づくっている要素に関する取り扱い

「まなびリンク」は、見る、聴く、記録するで構成され、アクティブの紙面と、教材の準備が難しいと考えられる紙面で使用できるように手厚く準備されている。また、1年と2・3上の「どんな特徴があるかな?」では音楽を形づくっている要素を意識した鑑賞活動が設定され、音楽的な見方・考え方を働かせながら曲想の変化との関わりについての学習が展開できるよう工夫されている。



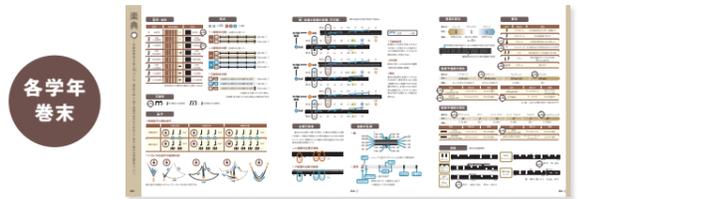
### 音楽史の取り扱いの改善・充実について

2・3下には、「日本と西洋の音楽の歩み」を掲載し我が国や郷土の伝統音楽を基盤として、音楽史上の重要な作品を鑑賞することができるように誌面構成を工夫している。また、音楽史の時代区分は全ての鑑賞教材のページ右側に示し(音楽史ナビ)、学習効果を高める工夫がなされている。さらに「肖像で見る音楽年表」を示し、視覚的に理解しやすいよう丁寧な配慮がなされている。



### 楽典のページの工夫について

全学年とも楽典のページを巻末の折込みページで示す工夫をし、これによって楽典のページを参照しながら学習することが可能な紙面構成となっている。



## 今日的な課題について

### SDGs(持続可能な開発目標)との関連について

SDGs 17の目標のうち、「4. 教育」では質の高い学習を提供する紙面構成とカリキュラム(学びのユニット)への提案、「5. ジェンダー」では男女平等にたった合唱活動などへの配慮、「10. 不平等」ではそれぞれの国や地域の音楽文化を尊重した編集の方針、「16. 平和」では平和や公正を訴える歌詞がある教材を採用するなど、的確な編集となっている。



### キャリア教育との関連について

生徒のキャリアと関連するように、2・3下には「私たちのくらしと音楽」でアウトリーチ、教育活動、音楽療法などの具体を示すとともに、若手演奏家や伝統音楽・芸能の担い手や後継者などを積極的に登用した紙面となっている。



若手演奏家: 黒川真理, 杵屋佐喜, 松永忠三郎  
 伝統音楽・芸能の担い手や後継者: 八百谷啓, 親世喜正, 市川團十郎(十二代目), 尾上菊五郎(七代目), 尾上達之助(二代目), 市川團蔵(九代目), 尾上松助(六代目), 市川右之助(三代目), 片岡市蔵(五代目), 吉田玉男(二代目), 神田囃子保存会, 金津流横浜獅子躍

### 特別支援教育との関連について

特別支援教育の専門家の監修を受け、学びに集中できるレイアウトや配色(カラーユニバーサルデザイン), 見やすく読みやすい文字(ユニバーサルデザインフォント)など、細部にわたり配慮がなされている。これによって、誰にでも見やすく読みやすくなりやすい紙面となるよう工夫している。

カラーユニバーサルデザインの取り組み  
 色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインを取り入れ、全学年、NPO法人CUDOの認証を受けています。



### 他の教科等の学習、小学校の学習との関連について

音楽の学習と、他の教科の学習との横断的な学習の実施について示唆される編集となっている。

- ・国語: 歌唱共通教材における七五調の歌詞, 短歌や俳句との関係, 歌舞伎や狂言の取り扱い
- ・社会: 雅楽・能・文楽・歌舞伎の歴史的背景, 国民楽派の音楽に関わる歴史的・地理的背景
- ・理科: 音に関する物理的な学び
- ・外国語: 英語やイタリア語による歌詞の表現
- ・道徳: [郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度][我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度][感動, 畏敬の念]などの学習との関連, 弊社道徳教科書に共通する教材「旅立ちの日に」

## 印刷や造本について

判型はAB変型を採用し、カラーユニバーサルデザインによって文字、楽譜、写真、挿絵の見やすさに配慮している。また、学びのポイントや音楽史ナビ、折込みとなっている楽典のページなどの工夫が見られる。再生紙、植物油インキ、グリーン電力を使用し、環境に配慮し、造本は堅牢で長期の使用に耐えられるとともに軽量化の工夫がなされ、用紙は耐用性の高い上質なものを使用している。



環境にやさしい再生紙と植物油インキを使用し、印刷にはバイオマスで発電されたグリーン電力が使われています